



静岡県
ファルマバレープロジェクト
第4次戦略計画

令和3年3月

静岡県

目 次

1	策定の趣旨	1
2	基本理念	1
3	基本方向	2
	ファルマバレープロジェクト第4次戦略計画の全体像	5
	戦略1 ベッドサイドのニーズに応える“ものづくり”	6
	戦略2 医療と産業を担う“ひとづくり”	11
	戦略3 高付加価値産業が集積し、人生100年時代の価値を生み出す“まちづくり”	13
	戦略4 世界の医療福祉現場の質の向上に資する“世界展開”	16
参考1	戦略・戦術ごとの展開と所管部署	18
	戦略1 ベッドサイドのニーズに応える“ものづくり”	18
	戦略2 医療と産業を担う“ひとづくり”	19
	戦略3 高付加価値産業が集積し、人生100年時代の価値を生み出す“まちづくり”	20
	戦略4 世界の医療福祉現場の質の向上に資する“世界展開”	21
参考2	ファルマバレープロジェクト第4次戦略計画検討委員会委員	22
参考3	ファルマバレープロジェクト第3次戦略計画評価報告書（概要）	23
参考4	ファルマバレープロジェクトのあゆみ	24
参考5	ファルマバレープロジェクト19年の軌跡（平成14年度～令和2年度）	26

1 策定の趣旨

ファルマバレープロジェクトは、世界トップクラスのがん診療拠点である静岡がんセンターを中心に、先端医療の提供と高度な研究開発を実施することで、我が国でも類を見ない医療機関を中心とした産業クラスターの形成を図ってきました。

プロジェクトは、第3次戦略計画（平成23年度から令和2年度）に基づき、静岡がんセンターによるゲノム医療の推進や、中核支援機関（公財）ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレーセンターの地域企業への積極的な支援、拠点施設である「静岡県医療健康産業研究開発センター（愛称：ファルマバレーセンター）」の整備・活用などを進めてきた結果、本県の医薬品・医療機器合計生産金額が10年連続で全国1位となるなど、大きな成長を遂げています。

一方、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大や自動車産業界における電動化に向けた動きなど、静岡県を取り巻く社会経済環境は大きな変革期を迎えています。特に新型コロナウイルス感染症のワクチン供給をはじめ、医薬品・医療機器の多くが海外からの輸入に依存せざるを得ない状況であることから、これらの国産化が極めて重要であり、将来的な輸出産業化を目指すためにも、これまで本県の医療健康産業を牽引してきたファルマバレープロジェクトが担う役割は非常に大きなものがあります。

そこで、これまで培った知見を活かして、プロジェクトが国内のみならず、世界をリードするクラスターとして更なる革新を図るとともに、新たな社会課題の解決に資するために、第4次戦略計画（令和3年度から令和7年度）の策定を行うこととしました。

2 基本理念

プロジェクトの基本理念は、引き続き、「**世界一の健康長寿県の形成**」とします。

プロジェクトでは、この理念を達成するため、「**健康増進・疾病克服**」と「**県民の経済基盤の確立**」を両輪として施策を推進してまいります。

「健康増進・疾病克服」については、静岡がんセンターを中心に世界レベルの研究開発をより一層充実し、患者・家族のために臨床現場への応用を図ります。

「県民の経済基盤の確立」については、地域企業の医療健康分野への参入や、市町のプロジェクト参加などの動きを発展させて、患者や臨床現場のニーズ（ベットサイドニーズ）に応える製品や技術を開発し、国内・世界に販売することにより、医療の質の向上や社会課題の解決につなげます。

計画の推進に当たっては、プロジェクトの開始時から関係者の行動規範となっている「ファルマバレー宣言」を関係者が共有し、本県が目指す「県民幸福度」の最大化に向けて、“医療・健康”をキーワードに、「生まれてよし、老いてよし」、「生んでよし、育ててよし」、「学んでよし、働いてよし」、「住んでよし、訪れてよし」の我が国のモデル地域となることを目指します。

《ファルマバレー宣言》

『私たちは、患者・家族の視点に立ち、
叡智を育み結集し、
共に病と闘い支えあい、
健康社会の実現に貢献することを宣言します。』

3 基本方向

ファルマバレープロジェクトは、これまでの始動期（第1次戦略計画期間）、成長期（第2次戦略計画期間）、自立的発展期（第3次戦略計画期間）を経て、着実に成長を遂げてきました。

第4次戦略計画では、第3次戦略計画の戦略の柱を引き継ぎ、“ものづくり”、“ひとづくり”、“まちづくり”、“世界展開”の4つの視点から、医療機関を中心として高付加価値産業が集積し、質の高い医療と癒しを提供する**医療城下町（メディカルガーデンシティ）**の更なる発展を目指します。

【ファルマバレーが目指す姿と取組の方向】

○ものづくり

プロジェクト発の製品が医療や介護の現場に定着し、医療の質の向上や健康長寿社会の実現に貢献するとともに、高品質で機能性等に優れた製品やサービスが、全国で広く評価されています。

超高齢社会の進展、ゲノム情報に基づく個別化医療の社会実装や新型コロナウイルス感染症の蔓延を契機とした社会環境の変化に対応する製品等が多数生み出され、医療健康産業を中心とした産業構造への転換が進むことで、地域企業が元気になり、医療健康産業など「命を守る産業」が本県経済の持続的な発展を牽引しています。

これに向け、静岡がんセンターをはじめプロジェクトに参画する大学や研究機関は、テーマの重点化や県外企業も含めた連携の活発化を図ることで、患者・家族及び医療従事者のニーズに基づいた最先端の研究開発を加速化します。

また、超高齢社会の課題解決に向けて、「高齢者が個人として尊重され、その人らしく暮らしていける自立支援システムの構築」を目指す「健康長寿・自立支援プロジェクト」を推進します。

さらに、戦略的なマーケティングにより、医療や介護の現場に広く受け入れられる製品の研究開発を目指すとともに、販売業者等の販売ネットワークも活用しながら、プロジェクト発の製品の全国展開を推進します。

○ひとづくり

患者家族が満足できる質の高い医療サービスを提供する人材や医療健康産業の成長を支える高度な知識と技術を有する人材が、数多くこの地域で活躍し、県民の健康な生活と本県経済の持続的な成長を支えています。

これに向け、静岡がんセンターが実践してきた、患者家族の視点に立った質の高い医療従事者の育成を進めます。

また、連携大学等高等教育機関との連携を進め、研究者、技術者など、プロジェクトに関係する産業人材の育成を図ります。

○まちづくり

新型コロナウイルス感染症の蔓延による社会構造の変化を踏まえ、優れた技術を有する多様な産業分野の企業が医療健康分野へ参入し、集積するとともに、質の高い医療・介護や、地域資源・文化芸術を組み合わせた癒しの提供など、健康サービスが充実した、住む人も訪れる人も快適な魅力ある都市圏が形成されています。

プロジェクトの取組が県境を越え、県内外の企業やアカデミア等による強固なネットワークが構築されています。これらにより、医療機関を中心として高付加価値産業が集積し、質の高い医療と癒しを提供する医療城下町（メディカルガーデンシティ）が更なる成長を遂げています。

これに向け、市町と協働して、医薬品・医療機器等を開発する医療健康分野の企業や研究施設の誘致等に取り組むとともに、地域企業の医療健康分野への参入支援や、ベンチャー企業の育成を進めます。

また、山梨県等、他県の企業やアカデミア等との連携により、全国に広がるネットワークと各地域の特色ある技術・取組の活用を推進し、医療健康産業の更なる基盤強化を図ります。

○世界展開

医薬品、医療機器の国産化・輸出産業化が進展し、医療健康産業が本県経済を牽引するリーディング産業へと成長するとともに、プロジェクトの先駆的な取組や仕組みが国境を越えて広がり、世界の医療・介護の質の向上や社会課題の解決に貢献しています。

人、モノ、情報が世界から集まるとともに、プロジェクトから生まれた製品、仕組み、ノウハウが世界に広がるような、アジアを牽引し北米のリサーチ・トライアングル等とも肩を並べる医療健康分野の集積地が形成されています。

これに向け、インプラント等アジア向けの戦略的商品の開発や、感染症治療薬等輸入代替品の開発など、輸入に頼る医療機器等の国産化を推進します。

また、静岡がんセンターの医療哲学等、プロジェクトの先駆性を広く発信し、世界の医療・介護の現場への定着を図ります。

【計画期間】

令和3年度（2021年度）から令和7年度（2025年度）までの5年間

【指 標】

・ 成果指標

戦略計画において、計画最終年度である令和7年度の成果指標を設定します。

成果指標	目標値	現状値
医薬品・医療機器合計生産金額	2兆円	1兆2,404億円（令和元年）

・ 活動指標

成果指標である「医薬品・医療機器合計生産金額」を達成するための活動指標を設け、プロジェクトの進捗状況を評価していきます。

成果指標	目標値	現状値
ファルマバレープロジェクトによる事業化件数（累計）	70件（14件／年）	14件（令和元年度）
ファルマバレープロジェクトによる産業人材の育成人数（累計）	215人（43人／年）	45人（令和元年度）
企業立地件数（県内全域）（累計）	325件（65件／年）	76件（令和元年）

【重点的に取り組む項目】

現在、我が国は超高齢社会を迎えており、いわゆる“人生100年時代”を、いかに健康的に過ごすのが課題となっています。本プロジェクトでは、平成30年度に着手した「健康長寿・自立支援プロジェクト」を引き続き推進し、高齢者の自立に向けた製品開発の支援等に取り組むとともに、ファルマバレーセンター内に整備した高齢者の自立を支援する理想の住環境のモデルルームを活用して、地域企業のさらなる参入や、新たな製品の開発を加速させます。

また、静岡がんセンターが国内最大規模の臨床検査受託会社である(株)エスアールエルと共同出資して設立した「エスアールエル・静岡がんセンター共同検査機構(株)」と連携し、ゲノム情報に基づく個別化医療の社会実装に向けた研究開発を推進してまいります。

さらに、令和元年12月に医療健康産業政策に関する連携協定を締結した山梨県のメディカル・デバイス・コリドー推進計画など、周辺地域の取組や、他のライフノベーション分野の総合特区との連携を深め、プロジェクトの取組を点から面へと拡大することにより、全国に広がるネットワークと、各地域の特色ある技術・取組の活用を進め、プロジェクトの一層の推進を図ってまいります。

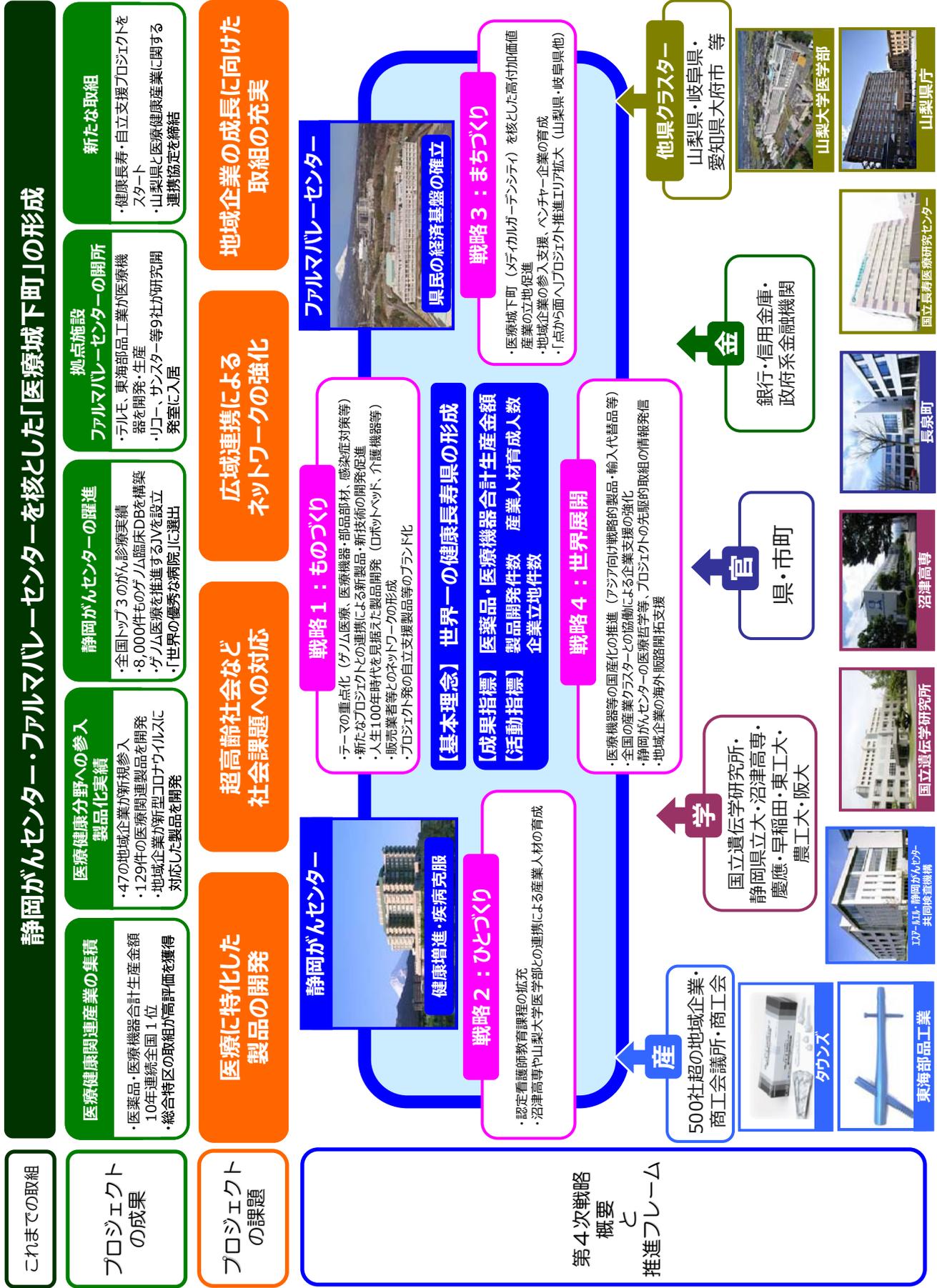
加えて、感染症治療薬や医療機器の多くを輸入に依存する我が国の実態を踏まえ、将来の輸出産業化も見据えて、新型コロナウイルス感染症対策などに関わる地域企業の技術開発を集中的に支援し、医薬品・医療機器等の国産化を着実に進めます。

医療城下町（メディカルガーデンシティ）の更なる発展に向け、次のとおり、具体的な戦略を展開します。



静岡がんセンターと
拠点施設 静岡県医療健康産業研究開発センター
(ファルマバレーセンター)

ファルマバレープロジェクト第4次戦略計画の全体像



戦略1 ベッドサイドのニーズに応える“ものづくり”

【基本方向】

<目指す姿>

- ・ プロジェクト発の製品が医療や介護の現場に定着し、医療の質の向上や健康長寿社会の実現に貢献するとともに、高品質で機能性等に優れた製品やサービスが、全国で広く評価されている。
- ・ 超高齢社会の進展、ゲノム情報に基づく個別化医療の社会実装や新型コロナウイルス感染症の蔓延を契機とした社会環境の変化に対応する製品等が多数生み出され、医療健康産業を中心とした産業構造への転換が進むことで、地域企業が元気になり、医療健康産業など「命を守る産業」が本県経済の持続的な発展を牽引している。

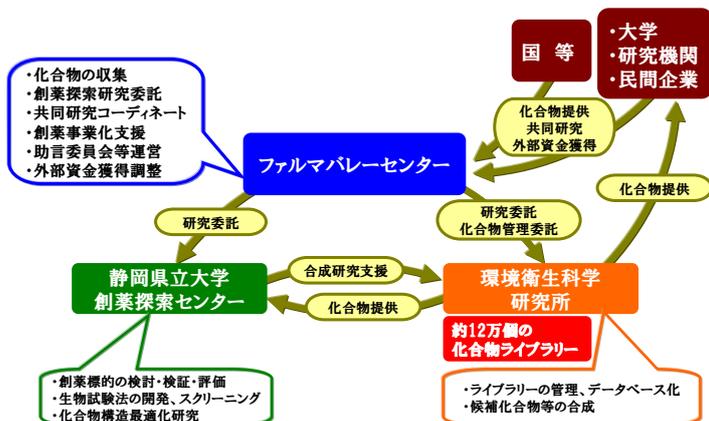
<取組方向>

- ・ 静岡がんセンターをはじめプロジェクトに参画する大学や研究機関は、テーマの重点化や県外企業も含めた連携の活発化を図ることで、患者・家族及び医療従事者のニーズに基づいた最先端の研究開発を加速化する。
- ・ 超高齢社会の課題解決に向けて、「高齢者が個人として尊重され、その人らしく暮らしていける自立支援システムの構築」を目指す「健康長寿・自立支援プロジェクト」を推進する。
- ・ 戦略的なマーケティングにより、医療や介護の現場に広く受け入れられる製品の研究開発を進めるとともに、販売業者等の販売ネットワークも活用しながら、プロジェクト発の製品の全国展開を推進する。

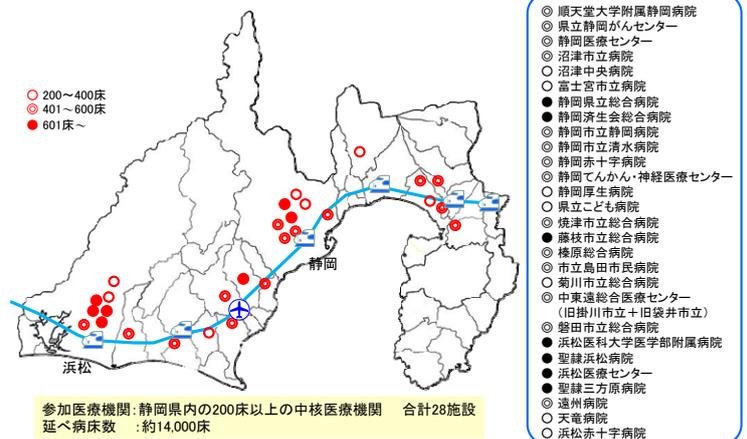
【戦術1】 研究開発の推進

◎ 静岡がんセンターを中心とした研究開発

静岡がんセンターや国立遺伝学研究所、静岡県立大学等県内大学、首都圏の連携協定大学など、国内外の大学、研究機関が連携し、創薬プラットフォームや静岡県治験ネットワークも活用しながら、3つの視点で医療健康分野の研究開発を推進します。



創薬プラットフォーム



静岡県治験ネットワーク

【3つの視点の研究開発】

- 静岡がんセンターと大手企業との連携による、革新的ながん治療薬・診断薬や次世代機器等の研究開発。
- 基礎研究の成果の臨床応用や社会実装を目指すトランスレーショナルリサーチ¹。
- ファルマバレーセンターのものづくりプラットフォームにより、静岡がんセンター等医療現場のニーズを地域企業の技術シーズと結び付けて進めるニッチ製品の研究開発。



◎ テーマの重点化による研究開発の推進

ゲノム医療やロボット、新興感染症関連製品について、医療や社会環境等の変化も見据えて重点テーマに位置付け、助成制度の活用により研究開発を推進します。

- 静岡がんセンターの「プロジェクトHOPE」で構築されたゲノム臨床データベースを基にした、治療薬・診断薬などの研究開発。



次世代シーケンサー(プロジェクトHOPE)

- がん診断装置・治療装置や医療用ソフトウェア、チタン等生体適合素材、CNF等、医療機器・部品部材の研究開発
- 新型コロナウイルス感染症に対する診断薬や「遠隔・非接触」を前提にした社会変容へ対応する製品等社会課題に対応する製品の研究開発。

1 大学などの研究室で発見された基礎的な知見や技術について、臨床応用の可能性を積極的に評価しなおして、臨床の場に使われるまでに育てること。基礎の場である大学等と実業との橋渡しをする研究。

◎ **新たなプロジェクトとの連携による新製品・新技術の開発**

○ **先端産業創出プロジェクトとの連携強化**

県が推進するフotonバレープロジェクト、フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクトや、MaOIプロジェクト、ふじのくにCNFプロジェクト、AOIプロジェクトなど、先端産業創出プロジェクトとの連携を強化し、本県の場の力を最大限に活かした研究開発を進めます。

＜ファルマバレープロジェクトに関連する主な先端産業創出プロジェクト＞

プロジェクト名	内 容
 <p>フotonバレープロジェクト</p>	<p>産業の基盤技術として重要な光・電子技術の活用を推進し、県内産業の競争力を高めると共に、県西部地域の産業支援機関、大学、自治体、金融機関等と連携し、研究開発、事業化、人材育成などを支援する</p>
 <p>フーズ・ヘルスケア オープンイノベーション(FHCaOI) プロジェクト (Food and Healthcare Open Innovation)</p>	<p>地域資源を活用した機能性食品などの開発支援を推進しつつ、新たにヘルスケアの取組を加え、健康寿命の延伸と産業の創出による経済の持続的発展を確立する</p>
 <p>MaOI プロジェクト (Marine Open Innovation)</p>	<p>駿河湾などの特徴ある環境や、生息する多様な海洋生物など魅力ある海洋資源を活用し、マリンバイオテクノロジーを核としたイノベーションを促進することで、本県における多彩な産業の振興と創出を実現する</p>
 <p>ふじのくに CNF プロジェクト (セルロース ナノ ファイバー)</p>	<p>「CNF を活用した製品開発の支援」、 「研究開発の強化」及び「製造拠点の形成」を三本柱とし、関連産業の創出と集積を目指す</p>
 <p>AOI プロジェクト (Agri Open Innovation)</p>	<p>AOI-PARC を拠点に、革新的な栽培技術や品種の開発による農業の飛躍的な生産性の向上、「農・食・健」「農・商・工」の産業分野や産学官金の幅広い参画による農業を軸とした関連産業のビジネス展開を促進する</p>

○ 県域を越えた連携による研究開発の加速化

産業用ロボットメーカーや半導体メーカー、工作機械メーカー等の世界的企業が立地し、精密加工や電気機械・電子デバイス生産等を行う企業が集積する山梨県との緊密なネットワークを構築し、本県と異なる特徴的な技術を有する山梨県内企業のリソースと、新たに山梨県7市町を計画区域に組み込む総合特区の支援制度を活用することにより、革新的技術・製品の開発を一層推進します。

【戦術2】 健康長寿・自立支援プロジェクトの推進

◎ 人生100年時代を見据えた製品開発

○ 介護機器・医療機器等の開発

山梨県内企業が有するロボット関連技術等も活用しながら、ロボットベッド等自立支援の中核を担う介護機器の研究開発を進めるとともに、首都圏のAI・IoT関連企業等との連携等を通じて、聴力、視力、歩行機能、口腔機能など高齢化により衰える機能の補完や、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上に資する医療機器等の研究開発に取り組みます。

○ 超高齢社会における理想の住環境の提案

高齢者の自立をサポートする理想の住環境をハウスメーカー等に提案し、全国への普及を図るとともに、ファルマバレーセンター内に整備したモデルルームを活用して、介護福祉関連企業など地域企業のさらなる参入拡大や、新製品のアイデア創発を促します。



理想の住環境のモデルルーム

○ 老化現象の予測・予防

静岡がんセンターが平成26年度より進めている臨床研究「プロジェクトHOPE」の遺伝子解析データを用いて、老化現象の進行予測や予防に取り組みます。

健康長寿・自立支援プロジェクト

4つの戦略で人生100年時代の 老化による疾病・機能低下に対応



【戦術3】 マーケティングのシステムづくり

◎ 販売促進

○ プロジェクトの成果の導入・販売促進

- ・ 静岡県治験ネットワーク病院など県内医療機関や、山梨大学医学部附属病院など県外の連携医療機関で院内展示会を開催するとともに、企業による医療機関への試用医療機器等の提供を支援するなど、プロジェクトの成果の医療現場への導入を促進します。



院内展示会

- ・ 卸売業者や大手メーカーの販売ネットワークを活用し、全国の医療機関へと販路を拡大することにより、プロジェクト発の医療機器等の販売を促進します。
- ・ 販売後のメンテナンスや定期点検を行うサービス業者のネットワークの活用も視野に入れることで、サービスの拡充による販売の促進にも取り組みます。

○ プロジェクトの成果のブランド化

プロジェクトから生まれる介護・福祉分野の製品等に関して、認証制度等によるブランディングに取り組み、他の製品との差別化を図ることで、“Made in Mt. Fuji”の優れた製品の販売促進に繋がります。



プロジェクトロゴマーク

○ 戦略的なマーケティングに向けた体制の構築

医療健康分野の研究開発や販売戦略等に関して、豊富な知識や経験を有する人材とのネットワークを活用し、研究開発の初期段階から、ニーズの市場性や競合製品の機能分析等を踏まえた戦略的なマーケティングを行うことで、医療や介護の現場に広く受け入れられ、継続的な販売に結び付く製品の創出を目指します。

戦略2 医療と産業を担う“ひとづくり”

【基本方向】

<目指す姿>

- ・ 患者家族が満足できる質の高い医療サービスを提供する人材や医療健康産業の成長を支える高度な知識と技術を有する人材が、数多くこの地域で活躍し、県民の健康な生活と本県経済の持続的な成長を支えている。

<取組の方向>

- ・ 静岡がんセンターが実践してきた、患者家族の視点に立った質の高い医療従事者の育成を進める。
- ・ 連携大学等高等教育機関との連携を進め、研究者、技術者など、プロジェクトに関係する産業人材の育成を図る。

【戦術1】 プロジェクトを支える人材の育成

◎ 質の高い医療人材の育成

○ 医師・看護師等の育成

患者・家族が安心して質の高い医療サービスを受けることができるよう、静岡がんセンターのレジデント制度や認定看護師教育課程、連携大学院制度等を通じて、医師や認定看護師などの医療人材の育成に努めます。認定看護師については、特定行為研修を通じて、創傷や点滴の管理に関する高度な技術と知識を有する看護師を育成し、地域医療や在宅医療への貢献を目指します。



認定看護師教育課程

○ 新しい医療連携システムによる人材育成

多職種チーム医療²を実践するがん専門の医療従事者を養成するとともに、「がんよろず相談所」「患者家族支援センター」「Web版がんよろず相談Q&A」などにより患者や家族の悩みや負担を和らげるケアの普及を図ります。

○ 大学と連携した健康関連人材の育成

県内大学、スポーツ科学研究者等との連携により、最新のトレーニング理論やスポーツ医学、社会健康医学等に精通した健康関連人材を育成します。

2 患者に最善の治療とケアを提供するシステムの構築を目的として、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、ソーシャルワーカーなどによって構成され、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること。

◎ 医療健康産業を牽引する産業人材の育成

○ 医療機器開発に精通した技術者等の育成

- ・ 沼津工業高等専門学校が行う富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム（F-met）や医療福祉機器開発工学コースのほか、バイオデザインなどシリコンバレー発の医療機器開発メソッドに関するセミナー等を通じて、本県の医療健康産業を牽引する技術者や医療健康分野の研究開発をマネジメントできる企業家・経営者を育成します。



富士山麓医用機器開発エンジニア
養成プログラム

- ・ 様々な医学領域の講義や医療現場の見学のほか、医療機器の設計・試作を実践する山梨大学医学部医療機器設計開発人材育成講座の活用を図ることで、医療現場のニーズを理解し、製品化することができる医療健康分野に精通した高度な技術者を育成します。



山梨大学医学部
医療機器設計開発人材育成講座

○ 高度な研究人材の育成

慶應義塾大学等との医看工連携協定に基づく共同研究や、企業研究者の医療現場への受け入れにより、医療の実態に即した先端的な研究を行う人材を育成するほか、静岡県立大学創薬探索センターでの創薬科学教育を通じて、薬理作用の評価や化合物の合成等、専門的な知識を有し、将来の新薬開発を担う人材を育成します。

○ 学校教育における産業人材の育成

未来のスペシャリスト育成やサイエンススクールにより、高校生が大学等の高度な学問や最先端の研究に触れる機会を提供し、医療健康産業を含めた本県の先端産業を担う人材を育成します。

戦略3 高付加価値産業が集積し、人生100年時代の価値を生み出す“まちづくり”

【基本方向】

＜目指す姿＞

- ・ 新型コロナウイルス感染症の蔓延による社会構造の変化を踏まえ、優れた技術を有する多様な産業分野の企業が医療健康分野へ参入し、集積するとともに、質の高い医療・介護や、地域資源・文化芸術を組み合わせた癒しの提供など、健康サービスが充実した、住む人も訪れる人も快適な魅力ある都市圏が形成されている。
- ・ プロジェクトの取組が県境を越え、県内外の企業やアカデミア等による強固なネットワークが構築されている。これらにより医療機関を中心として高付加価値産業が集積し、質の高い医療と癒しを提供する医療城下町（メディカルガーデンシティ）が更なる成長を遂げている。

＜取組の方向＞

- ・ 市町と協働して、医薬品・医療機器等を開発する医療健康分野の企業や研究施設の誘致等に取り組むとともに、地域企業の医療健康分野への参入支援や、ベンチャー企業の育成を進める。
- ・ 山梨県等、他県の企業やアカデミア等との連携により、全国に広がるネットワークと各地域の特色ある技術・取組の活用を推進し、医療健康産業の更なる基盤強化を図る。

【戦術1】 医療城下町（メディカルガーデンシティ）を核とした高付加価値産業の集積

◎ 企業誘致等による集積の促進

○ 県・市町が連携した企業誘致、流出防止

工業団地などのインフラ整備を促進し、富士山麓地域に、医療健康分野の企業や研究施設を積極的に誘致するほか、ICT 関連等、規模は小さくても高い付加価値を生み出す産業の集積にも取り組みます。

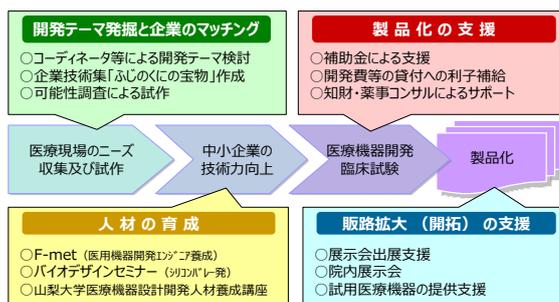
○ 地域企業と大企業とのサプライチェーン構築

地域企業の優れた技術について、大企業へ情報発信を行うほか、企業内展示会の開催等によってマッチングの機会を提供し、大企業と地域企業との部品・部材等の供給などでの連携を促進します。

◎ 参入支援とベンチャー企業の育成

○ 地域企業の医療健康産業への参入支援

- ・ ファルマバレーセンターに配置したコーディネータが、地域企業の医療健康分野への挑戦を伴走支援するとともに、拠点施設に入居する薬事コンサルタント等との連携により、参入障壁となる薬事関連法規など法制度への対応を全面的にサポートし、地域企業の参入促進を図ります。

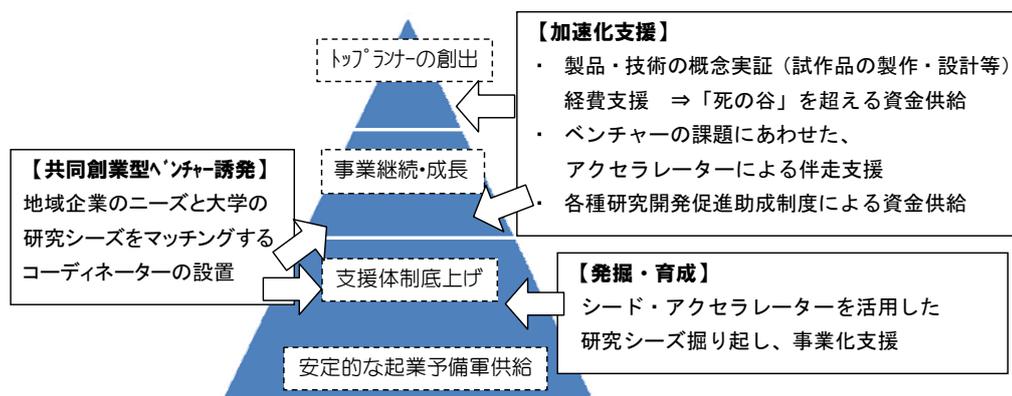


ファルマバレーセンターの
ものづくりプラットフォーム

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策等に関わる地域企業の技術開発を集中的に支援することにより、医療健康産業への転換を促進します。
- ・ 健康長寿・自立支援プロジェクトを推進し、介護・福祉分野の多様なニーズを、幅広い産業分野の地域企業に結びつけることにより、新たな参入の拡大を図ります。

○ 大学発ベンチャー等の育成

大学発ベンチャーへの支援体制を強化し、民間アクセラレーターとも連携しながら、有望な研究シーズの掘り起こしや地域企業のニーズとのマッチング、起業に向けた伴走支援等を行うほか、各種研究開発促進助成制度による資金供給など、創業者やベンチャー企業の継続的な創出・育成に取り組みます。



大学発ベンチャーの継続的な創出に向けた支援

◎ 人生 100 年時代の課題への対策

○ 市町等との連携による健康長寿社会の形成

- ・ 連携協定を締結している長泉町など周辺市町と連携して、医療や介護福祉現場を実証フィールドとして活用するなど、プロジェクトに参画する地域企業を積極的に支援することにより、地域における健康長寿社会の形成と、医療健康産業を核とした経済発展の促進を図ります。
- ・ 裾野市内で計画されているトヨタ自動車㈱の「ウーブン・シティ」など、民間企業の先進的な取組との相乗効果も視野に入れ、プロジェクト発の仕組みや製品の社会実装を図ります。

◎ 健康をテーマとした地域づくり

○ 地域資源を活用した癒しの提供

かかりつけ湯など、温泉、食材、文化芸術等を組み合わせた癒しの提供や、スポーツや多彩な地域文化の振興のほか、市町の健康づくりプログラムの普及促進、食育の推進などに取り組みます。



リラクゼーションプログラム
(伊豆市 船原館)

- **フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクトの成果を活かした地域づくり**
静岡社会健康医学大学院大学との連携によるビッグデータに基づく研究成果の社会実装や、静岡県立大学のデータヘルス・リビングラボによる実証試験、健康食ビジネスモデルの創出など、フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクトの成果を活用し、市町と連携して健康をテーマとした地域づくりに取り組みます。

【戦術2】 「点から面へ」プロジェクト推進エリアの拡大

◎ 山梨県との連携による医療健康産業の活性化

○ 山梨県内の医療機関や企業等のニーズ・シーズの活用

本県とは異なる産業構造と特徴的技術を有し、「メディカル・デバイス・コリドー推進計画」を進める山梨県のリソースと、新たに山梨県7市町を計画区域に組み込む総合特区の支援制度を活用することにより、本県企業のものづくり力の強化や生産性の向上を図り、医療健康産業の更なる活性化を目指します。



山梨県「メディカル・デバイス・コリドー」推進計画との連携

◎ 広域連携を通じた取組の充実

○ 他県の技術やネットワークの活用

岐阜県や愛知県大府市など、周辺自治体との広域連携に積極的に関わり、プロジェクトを点から面へと展開します。愛知県大府市のウェルネスバレーの実証フィールドを活用した介護・福祉機器等の研究開発や、岐阜県内企業の刃物加工技術と本県企業のものづくり技術とのマッチングなど、各地域のネットワークや特色ある技術の活用を進めます。



周辺自治体との広域連携

○ エリア拡大による情報発信力の強化

展示会への共同出展や、県外医療機関での院内展示会の開催など、相互連携による情報発信に関わり、医療城下町（メディカルガーデンシティ）の更なる充実を図ります。

戦略4 世界の医療福祉現場の質の向上に資する“世界展開”

【基本方向】

＜目指す姿＞

- ・ 医薬品、医療機器の国産化・輸出産業化が進展し、医療健康産業が本県経済を牽引するリーディング産業へと成長するとともに、プロジェクトの先駆的な取組や仕組みが国境を越えて広がり、世界の医療・介護の質の向上や社会課題の解決に貢献している。
- ・ 人、モノ、情報が世界から集まるとともに、プロジェクトから生まれた製品、仕組み、ノウハウが世界に広がるような、アジアを牽引し北米のリサーチ・トライアングル等とも肩を並べる医療健康分野の集積地が形成されている。

＜取組の方向＞

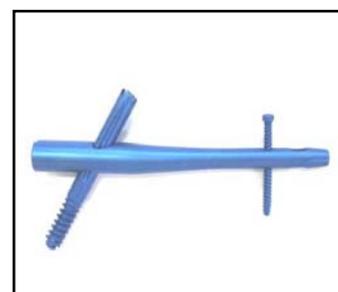
- ・ インプラント等アジア向けの戦略的商品の開発や、感染症治療薬等輸入代替品の開発など、輸入に頼る医薬品、医療機器の国産化を推進する。
- ・ 静岡がんセンターの医療哲学等、プロジェクトの先駆性を広く発信し、世界の医療・介護の現場への定着を図る。

【戦術1】 世界市場への戦略的製品の開発

◎ 医療機器等の国産化の推進

○ アジア向け戦略的製品開発への支援

アジア人の体格に合わせたインプラントや手術器具など、海外展開を見据えた戦略的な製品の開発を推進します。



アジア人の骨格に合わせた人工関節インプラント

○ 「命を守る産業」の基盤強化

将来の輸出産業化も見据えて、助成制度により感染症治療薬・診断薬や人工呼吸器等、海外からの輸入に依存する医薬品・医療機器等の国産化を着実に進め、「命を守る産業」のリーディング産業である医療健康産業の一層の基盤強化を図ります。

○ 全国の産業クラスターとの協働による企業支援の強化

ふじのくに先端医療総合特区を中心とした全国の産業クラスターとの協働により、中小企業の情報交換や技術交流、販売協力を積極的に進め、世界に通じる製品の開発に取り組むとともに、日本全体の医療健康産業の活性化を図ります。

◎ 世界展開に向けた生産体制の構築

○ 世界標準の品質管理システムの導入支援

ファルマバレーセンターのコーディネータと拠点施設に入居する薬事コンサルタント等との連携により、地域企業によるQMS体制の整備や世界標準の品質管理システム（IS013485）の導入、認証（FDA、CEマーク）の取得等に対して助言・指導を行い、世界展開に向けた生産体制の構築を支援します。

【戦術2】 プロジェクト発の優れた仕組みの輸出

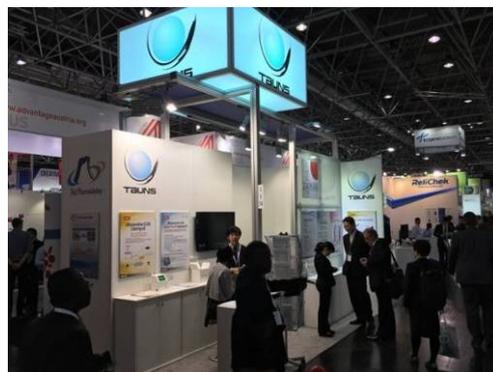
◎ “Made in Mt. Fuji” の先駆的取組や製品の海外への発信

○ プロジェクトの先駆的取組の発信

患者の視点を重視する静岡がんセンターの医療哲学について、海外の医療機関への導入を促進します。また、日本は世界に先駆けて人生100年時代を向かえていることから、「健康長寿・自立支援プロジェクト」の成果である高齢者の自立を支える住環境や製品群について、世界に向けて広く発信し、世界の医療・介護の質の向上や社会課題の解決に貢献します。

○ 地域企業の販路開拓に向けた取組支援

海外展示会への出展支援や、海外市場に関する情報提供、製品供給エリアの拡大に向けた戦略構築支援などにより、地域企業の海外販路の拡大を図ります。



海外展示会の例（MEDICA：ドイツ）

参考 1 戦略・戦術ごとの展開と所管部署

戦略 1 ベッドサイドのニーズに応える“ものづくり”

戦術 1 研究開発の推進

展開の内容	所管部署
1 静岡がんセンターを中心とした研究開発 ①大手企業との連携による製品開発 (1) 静岡がんセンターによる大手企業と連携した革新的ながん治療薬・診断薬や次世代機器等の研究開発	【実施主体】 静岡がんセンター 【県担当】 新産業集積課
②トランスレーショナルリサーチの推進 (1) 静岡がんセンター研究所を中心とした研究開発 (2) 創薬・診断薬開発 (3) 治験・臨床研究の推進	【実施主体】 静岡がんセンター ファルマバレーセンター 静岡県立大学 環境衛生科学研究所 【県担当課】 新産業集積課 薬事課
③ニッチ製品の研究開発 (1) ファルマバレーセンターによるニッチ製品の研究開発支援	【実施主体】 ファルマバレーセンター 【県担当】 新産業集積課 産業イノベーション推進課
2 テーマの重点化による研究開発の推進 ①プロジェクトHOPEによる治療薬・診断薬等の研究開発 ②がん診断装置、生体適合素材等医療機器・部品部材の研究開発 ③感染症対策関連等、社会課題に対応する製品の研究開発	【実施主体】 静岡がんセンター ファルマバレーセンター 【県担当課】 新産業集積課
3 新たなプロジェクト連携による新製品・新技術の開発 ①先端産業創出プロジェクトとの連携強化 (1) フォトンバレープロジェクトやフーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクト、MaOI プロジェクト、ふじのくに CNF プロジェクト、AOI プロジェクト等との連携	【実施主体】 ファルマバレーセンター 県庁 【県担当課】 産業政策課 新産業集積課 産業イノベーション推進課 農業戦略課
②県域を越えた連携による研究開発の加速化 (1) 山梨県との連携による研究開発	【実施主体】 ファルマバレーセンター 県庁 【県担当課】 新産業集積課

戦術 2 健康長寿・自立支援プロジェクトの推進

展開の内容	所管部署
1 人生 100 年時代を見据えた製品開発 ①介護機器・医療機器等の開発 (1) ロボットベッド等自立支援の中核を担う介護機器の研究開発 (2) 高齢化により衰える機能の補完や、QOL の向上に資する医療機器等の研究開発	【実施主体】 ファルマバレーセンター 【県担当課】 新産業集積課
②超高齢社会における理想の住環境の提案 (1) 高齢者の自立をサポートする理想の住環境の提案 (2) モデルルームの活用による地域企業の参入拡大	【実施主体】 ファルマバレーセンター 【県担当課】 新産業集積課
③老化現象の予測・予防 (1) プロジェクトHOPEの遺伝子解析データを用いた、老化現象の進行予測・予防	【実施主体】 静岡がんセンター 【県担当課】 新産業集積課

戦術3 マーケティングのシステムづくり

展開の内容	所管部署
1 販売促進 ①プロジェクトの成果の導入・販売促進 (1) 医療機関への使用促進に向けた働き掛け (1) 卸売り業者や大手メーカーの販売ネットワークの活用	【実施主体】 ファルマバレーセンター 【県担当課】 新産業集積課
②プロジェクトの成果のブランド化 (1) プロジェクトの成果のブランディングによる販売促進	【実施主体】 ファルマバレーセンター 県庁 【県担当課】 新産業集積課
③戦略的なマーケティングに向けた体制の構築 (1) 販売戦略等に関して豊富な知識や経験を有する人材の活用による戦略的なマーケティング	【実施主体】 ファルマバレーセンター 【県担当課】 新産業集積課

戦略2 医療と産業を担う“ひとづくり”

戦術1 プロジェクトを支える人材の育成

展開の内容	所管部署
1 質の高い医療人材の育成 ①医師、看護師等の育成 (1) レジデント制度による医師・歯科医師の育成 (2) 認定看護師教育課程による高度な看護師の育成 (3) 連携大学院制度による質の高いがん専門家の育成	【実施主体】 静岡がんセンター 【県担当課】 地域医療課 新産業集積課
②新しい医療連携システムによる人材育成 (1) 多職種チーム医療の取組を活用した医療者の育成 (2) 患者・家族への情報提供(処方)	【実施主体】 静岡がんセンター 【県担当課】 新産業集積課 地域医療課 疾病対策課
③大学と連携した健康関連人材の育成 (1) 最新のトレーニング理論やスポーツ医学、社会健康医学等に精通した健康関連人材の育成	【実施主体】 新産業集積課 健康福祉政策課
2 医療健康産業を牽引する産業人材の育成 ①医療機器開発に精通した技術者等の育成 (1) 医療機器等の研究開発を牽引する人材の育成 (2) 医療健康分野の研究開発をマネジメントできる企業家・経営者の育成 (3) 山梨大学医学部との連携による高度な技術者の育成	【実施主体】 ファルマバレーセンター 【県担当課】 新産業集積課
②高度な研究人材の育成 (1) 医看工連携協定に基づく研究者の育成 (2) 県立大学創薬探索センターでの研究者の育成 (3) 医療現場を活用した企業研究者の育成	【実施主体】 ファルマバレーセンター 県立大学 静岡がんセンター 【県担当課】 新産業集積課
③学校教育における産業人材の育成 (1) 教育委員会と連携した産業人材の育成	【実施主体】 高校教育課 新産業集積課

戦略3 高付加価値産業が集積し、人生100年時代の価値を生み出す“まちづくり”

戦術1 医療城下町（メディカルガーデンシティ）を核とした高付加価値産業の集積

展開の内容	所管部署
<p>1 企業誘致等による集積の促進</p> <p>①県・市町が連携した企業誘致、流出防止</p> <p>(1) 県・市町が連携した企業誘致</p> <p>(2) 企業のニーズや要望に応じた工業用地の整備</p> <p>(3) ICT 企業等高付加価値を生み出す産業の集積促進</p> <p>②大企業と地域企業とのサプライチェーンの構築</p>	<p>【実施主体】</p> <p>県庁 ファルマバレーセンター</p> <p>【県担当課】</p> <p>企業立地推進課 企業局地域整備課 総合政策課 産業イノベーション推進課</p>
<p>2 参入支援とベンチャー企業の育成</p> <p>①地域企業の医療健康産業への参入支援</p> <p>(1) ファルマバレーセンターの伴走支援による地域企業の参入促進</p> <p>(2) 新型コロナウイルス感染症対策等に関わる研究開発への集中支援による医療健康産業への転換促進</p> <p>(3) 介護・福祉分野の取組を通じた医療健康産業への参入拡大</p> <p>②大学発ベンチャー等の育成</p> <p>(1) 民間アクセラレーターとの連携による研究シーズの掘り起こしや地域企業のニーズとのマッチング、起業に向けた伴走支援</p> <p>(2) 各種研究開発促進助成制度による資金供給</p>	<p>【実施主体】</p> <p>ファルマバレーセンター 県庁</p> <p>【県担当課】</p> <p>新産業集積課 商工振興課</p>
<p>3 人生100年時代の課題への対策</p> <p>①市町等との連携による健康長寿社会の形成</p> <p>(1) 長泉町や裾野市等、周辺市町との連携による地域企業の支援</p> <p>(2) 民間企業の先進的な取組との相乗効果を視野に入れた取組の推進</p>	<p>【実施主体】</p> <p>静岡がんセンター ファルマバレーセンター 県庁</p> <p>【県担当課】</p> <p>新産業集積課 企業立地推進課</p>
<p>4 健康をテーマとした地域づくり</p> <p>①地域資源を活用した癒しの提供</p> <p>(1) かかりつけ湯など、温泉、食材、文化芸術等を組み合わせた癒しの提供</p> <p>(2) スポーツや多彩な地域文化の振興</p> <p>(3) 市町の健康づくりプログラムの普及促進、食育の推進</p> <p>②フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクトの成果を活かした地域づくり</p>	<p>【実施主体】</p> <p>ファルマバレーセンター 県庁</p> <p>【県担当課】</p> <p>新産業集積課 観光政策課 観光振興課 文化政策課 マーケティング課 健康福祉政策課、 健康増進課 商工振興課</p>

戦術2 「点から面へ」プロジェクトの推進エリアの拡大

展開の内容	所管部署
<p>1 山梨県との連携による医療健康産業の活性化</p> <p>①山梨県内の医療機関や企業等のニーズ・シーズの活用</p> <p>(1) 山梨県のリソース等の活用による本県企業のものづくり力強化・生産性向上</p>	<p>【実施主体】</p> <p>ファルマバレーセンター 県庁</p> <p>【県担当課】</p> <p>新産業集積課</p>
<p>2 広域連携を通じた取組の充実</p> <p>①他県の技術やネットワークの活用</p> <p>(1) 岐阜県や愛知県大府市等周辺自治体のネットワークや特色ある技術の活用による医療城下町（メディカルガーデンシティ）の充実</p> <p>②エリア拡大による情報発信力の強化</p> <p>(1) 展示会への共同出展や県外医療機関での院内展示会の開催等、相互連携による情報発信</p>	<p>【実施主体】</p> <p>ファルマバレーセンター 県庁</p> <p>【県担当課】</p> <p>新産業集積課</p>

戦略4 世界の医療福祉現場の質の向上に資する“世界展開”

戦術1 世界市場への戦略的製品の開発

展開の内容	所管部署
1 医療機器等の国産化の推進 ①アジア向け戦略的製品開発への支援 (1)アジア人の骨格に合わせたインプラントや手術器具などの開発 ②「命を守る産業」の基盤強化 (1)助成制度による感染症治療薬・診断薬等海外に依存する医薬品・医療機器等の国産化の推進 ③全国の産業クラスターとの協働による企業支援の強化 (1)全国のライフイノベーション分野の総合特区との協働による、中小企業の技術交流、販売協力の促進	【実施主体】 ファルマバレーセンター 県庁 【県担当課】 新産業集積課 疾病対策課
2 世界展開に向けた生産体制の構築 ①世界標準の品質管理システムの導入整備支援 (1)地域企業による QMS 体制の整備や世界標準の品質管理システム (ISO13485) の導入、認証 (FDA、CE マーク) の取得に向けた支援	【実施主体】 ファルマバレーセンター 【県担当課】 新産業集積課

戦術2 プロジェクト発の優れた製品や仕組みの輸出

展開の内容	所管部署
1 “Made in Mt. Fuji”の先駆的取組や製品の海外への発信 ①プロジェクトの先駆的取組の発信 (1)静岡がんセンターの医療哲学の海外医療機関への導入促進 (2)健康長寿・自立支援プロジェクトの成果の発信	【実施主体】 ファルマバレーセンター 静岡がんセンター 【県担当課】 新産業集積課
②地域企業の販路開拓に向けた取組支援 (1)海外展示会への出展支援や海外市場の情報の収集、製品供給エリアの拡大に向けた戦略構築支援等による地域企業の海外販路開拓支援	【実施主体】 ファルマバレーセンター 【県担当課】 新産業集積課

参考 2

第 4 次戦略計画検討委員会委員 (五十音順、敬称略)

氏 名	職 名	備 考
池田 和久	公益財団法人 静岡県産業振興財団 副理事長	
大石 人士	一般財団法人 静岡経済研究所 シニアチーフアドバイザー	
大坪 檀	学校法人 新静岡学園 学園長 静岡産業大学 総合研究所所長 公益財団法人 ふじのくに医療城下町推進機構 理事長	
大野 ゆう子	大阪大学大学院 教授	
加藤 久豊	富士フィルムメディカル株式会社 前取締役会長	
鬼頭 宏	静岡県立大学 学長	
笹川 裕記	テルモ株式会社 MEセンター センター長	
勝呂 衛	一般社団法人 静岡県医師会 副会長	
西島 昭男	サンフロント 21 懇話会 (TESS 委員長) 株式会社シード 代表取締役会長	
橋本 正洋	東京工業大学大学院 教授	
花岡 文雄	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 所長	
廣部 雅昭	東京大学 名誉教授 (元静岡県立大学学長)	
松田 久一	株式会社JMR生活総合研究所 代表取締役	
盛田 延之	東海部品工業株式会社 代表取締役	
矢作 恒雄	慶応義塾大学 名誉教授	
山口 建	県立静岡がんセンター 総長	
山崎 達美	東北大学ベンチャーパートナーズ株式会社 取締役	
若林 敬二	静岡県立大学 特任教授	

参考3 静岡県ファルマバレープロジェクト第3次戦略計画評価報告書（概要）

1 成果と評価

戦略別	代表的な成果
戦略1 “ものづくり”	<ul style="list-style-type: none"> ○医薬品・医療機器合計生産金額は10年連続全国1位 ○47の地域企業が新規参入、129件の製品を事業化 ○「ふじのくに先端医療総合特区」が令和元年度にライフイノベーション分野で1位となるなど、トップクラスの評価を獲得 ○プロジェクトHOPEで約8,000症例のがん臨床データベースを構築 ○SRL・静岡がんセンター共同検査機構株式会社を平成30年9月に設立し、ゲノム医療を推進 ○超高齢社会に対応した健康長寿・自立支援プロジェクトを開始 ○地域企業が新型コロナに対応した製品を開発。抗原検査キットを開発した企業は、数百億円以上の販売規模に対応する生産体制を構築
戦略2 “ひとづくり”	<ul style="list-style-type: none"> ○静岡がんセンターが、累計462名の認定看護師を養成 ○総合特区制度を活用したF-metにより累計91名を育成
戦略3 “まちづくり”	<ul style="list-style-type: none"> ○平成28年9月に拠点施設ファルマバレーセンターを全部開所。静岡がんセンターとファルマバレーセンターを中核とし、医療健康関連産業が集積する医療城下町を形成 ○令和元年12月山梨県と医療健康産業に関する連携協定を締結
戦略4 “世界展開の推進”	<ul style="list-style-type: none"> ○海外展示会の出展支援により10社以上の販売代理店を新規獲得 ○モンゴル、ベトナム、中国、ロシアなど、静岡がんセンターの病院システムの世界展開

- 医薬品・医療機器合計生産金額は、現在10年連続全国1位へと成長を遂げているほか、47の地域企業の新規参入や129件の製品化など大きな成果を挙げ、数値指標においても概ね目標を達成している。
- ゲノム医療を推進する新会社が設立されたほか、時代の変化を捉え、介護福祉分野のニーズを取り込んだ、健康長寿・自立支援プロジェクトが開始され、人生100年時代を支えるモデルルームが令和2年度中に完成するなど、新たな取組が進んでいる。
- 内閣府が認定する総合特区について、令和元年度に1位となるなど、国からも高い評価を受け、静岡がんセンターとファルマバレーセンターを中核とした産学官金の連携のもと、富士山麓の医療城下町が県域を越え拡大しつつある。
- 地域企業の販路の拡大など既に海外展開は進んでいるが、さらなる発展に向けた展開を考える段階に入っている。

2 委員からの提言（第4次戦略に向けて）

- 医療に特化した強力な製品の開発
⇒ゲノム医療・がん医療で有用な製品など
- 超高齢社会など、社会課題に対応する取組の推進
⇒生活支援ロボットの開発や、医療機器等の国産化の推進など
- 山梨県をはじめとした広域連携によるネットワークの強化
⇒プロジェクトの成果の全国展開と、県外企業等の技術シーズの取り込みなど
- 地域企業の更なる成長に向けた取組の充実
⇒ベッドサイドニーズに基づく製品開発の推進と、卸売業者・大手企業との連携による販売促進など

参考 4

ファルマバレープロジェクトのあゆみ

平成 13 年 2 月	富士山麓先端医療産業集積構想(富士山麓ファルマバレー構想)策定(推進期間：平成 13～22 年度)
平成 14 年 3 月	第 1 次戦略計画策定(計画期間：平成 14～18 年度)
平成 14 年 9 月	静岡がんセンター開院
平成 15 年 4 月	ファルマバレーセンター開設
平成 15 年 4 月	静岡県治験ネットワーク構築
平成 16 年 4 月	県立大学創薬探索センター設置
平成 16 年 4 月	都市エリア事業(一般型)に採択(実施期間：平成 16～18 年度)
平成 16 年 6 月	東京工業大学、東京農工大学、早稲田大学と包括的事業連携協定を締結
平成 17 年 11 月	静岡がんセンター研究所(研究棟)開設
平成 18 年 6 月	広域的新事業支援ネットワーク拠点重点強化事業に採択(計画期間：平成 18～21 年度)
平成 18 年 9 月	第 1 次戦略計画評価報告
平成 19 年 3 月	第 2 次戦略計画書策定(計画期間：平成 19～22 年度)
平成 19 年 3 月	都市エリア事業(発展型)に採択(実施期間：平成 19～21 年度)
平成 19 年 4 月	大手分析機器メーカーが、ファルマバレー長泉工業団地で操業開始
平成 20 年 4 月	静岡がんセンターが多職種がん専門レジデント制度創設
平成 20 年 8 月	静岡がんセンターと世界的製薬企業が、抗がん剤の基礎研究・臨床試験に関わる非独占的包括契約を締結
平成 20 年 11 月	静岡がんセンターが認定看護師教育機関に認定(病院立で全国初)
平成 21 年 5 月	地域再生人材創出拠点の形成に採択(実施期間：平成 21～25 年度)
平成 22 年 2 月	ファルマバレー訪問団が、仏バイオクラスター・研究所等を訪問
平成 22 年 6 月	川上・川下ネットワーク構築事業に採択
平成 22 年 6 月	地域イノベーションクラスタープログラムに採択 (実施期間：平成 22～24 年度)
平成 22 年 6 月	東京工業大学、東京農工大学、早稲田大学との包括的事業連携協定更新
平成 22 年 10 月	静岡がんセンターが、世界トップレベルの米国腫瘍放射線治療グループに加盟(国内の放射線治療施設として初)
平成 22 年 11 月	モンゴル大統領夫人が静岡がんセンターを視察、夫人が代表を務める N G O と同センターの間で、がんに関する相互協力の覚書に署名
平成 22 年 12 月	総合科学誌 nature に掲載
平成 22 年 12 月	第 2 次戦略計画評価報告
平成 22 年 12 月	慶應義塾大学と包括的事業連携協定締結
平成 23 年 3 月	第 3 次戦略計画書策定(計画期間：平成 23～32 年度)
平成 23 年 12 月	ふじのくに先端医療総合特区に指定
平成 25 年 7 月	地域イノベーション推進地域(国際競争力強化地域)に指定
平成 26 年 7 月	東京工業大学、東京農工大学、早稲田大学との包括的事業連携協定更新
平成 27 年 7 月	第 3 次戦略計画(第 1 次改定版)公表
平成 28 年 3 月	ファルマバレーセンター(静岡県医療健康産業研究開発センター)一部開所
平成 28 年 6 月	総合特区計画変更認定

平成 28 年 9 月	ファルマバレーセンター（静岡県医療健康産業研究開発センター）全部開所
平成 29 年 8 月	（一財）ふじのくに医療城下町推進機構設立
平成 30 年 4 月	（一財）ふじのくに医療城下町推進機構事業開始
平成 30 年 9 月	エスアールエル・静岡がんセンター共同検査機構（株）設立
平成 31 年 4 月	ふじのくに医療城下町推進機構公益法人化
令和元年 12 月	山梨県と医療健康産業政策に関する連携協定を締結
令和 3 年 2 月	総合特区計画変更申請（山梨県甲府市、富士吉田市、大月市、南アルプス市、中央市、昭和町、富士河口湖町の 7 市町を計画区域に追加）
令和 3 年 3 月	高齢者の自立を支援する理想の住環境のモデルルームを整備
令和 3 年 3 月	第 4 次戦略計画策定（計画期間：令和 3～7 年度）

< ファルマバレープロジェクト 19年の軌跡（平成14年度～令和2年度） >



基本理念

「世界一の健康長寿県の形成」
 <「健康増進・疾病克服」と「県民の経済基盤の確立」を両輪とした施策の推進>



取組・成果

